

56. 「失敗をする」

2014.7.1 遠藤清賢

私たちが子どもだった時、様々な失敗を体験してきたと思います。上手くできないことや他の人たちに迷惑をかけてしまった事、いま思い出すと数えきれないほどの失敗を繰り返してきたと思います。沢山の「してはいけないこと」をしてきたのだと思うのです。しかし、今があるということは、自分の失敗を、多くの人たちから、また、親から許して頂いたからです。失敗で他の人に迷惑をかけた時、自分の代わりに親が謝ってくれたこともたくさんあるかもしれません。私たちは失敗を繰り返し、たくさんの迷惑を許されて成長できるのだと思います。子どもが一人の大人として自立し、自信を持ち、将来に希望を持って成長するためには、失敗や迷惑を許される体験が絶対に必要なのだと思います。

子どもたちが失敗を自覚できるのは、早くても小学校就学1年くらいの頃からだと思います。失敗を失敗として理解できるためには自分がどんな子どもなのかがある程度理解できなければなりません。子どもが、これは失敗であるとか、他の人たちに迷惑をかけてしまったと判るようになったということはその子が大きく成長した証しです。これは喜ぶべきことです。私たち親は失敗や他者への迷惑をいけないこととして捉えるのではなく、成功のための貴重な体験として捉えてあげることが、親の務めなのです。子どもが失敗を自覚している時。改めて親がその失敗を指摘する必要はないと思います。子どもと同じ残念な気持ちとか、迷惑をかけたことに対して罪悪感を共有し励ましてあげる親子の関係ができれば、きっと子供たちは失敗を恐れず、新しい気持ちで前進できる人間になることができると思います。

失敗をすることは良い事ではありませんが大切なことです。人に迷惑をかけてしまうことも貴重な体験です。これを支えるのが親の役割です。子どもの成長を支えるということは失敗をしない人間になるように、とか迷惑を掛けないというのではなく、子どものすべてを受け入れる気持ちが求められます。いけないことをしたことを見過ごすということではなく、いけないことに対して子どもがどのような気持ちを持っているのかを理解することだと思います。時には何がいけなかったのか、失敗したことによって他の人を傷付けてしまったことを教えてあげる必要があるかもしれません。しかし、最終的には子どもを心から許し、子どもが許されたという新たな心を獲得して、より良い行動ができるように励ますことが親の務めだと思います。私たち親は子どもの失敗を、子どもにとって大きな成長の糧になると信じてあげることです。

子どもにとってたくさんの許される体験は、自分が支えてもらっている多くの人たちの、そして親の愛情を獲得する体験なのです。



《アップルケーキ》
カップ10個分
小麦粉 120g、
ベーキングパウダー
小さじ1
卵2個、砂糖 60g、
バター 60g、
リンゴ1個

《作り方》

1. バターは温室に戻し、柔らかくしておく。
リンゴは皮をむき1cm角に切る。
2. ボウルに卵、砂糖、バターを入れ良く混ぜる。
小麦粉とベーキングパウダー、
リンゴを入れてさっくり混ぜる。
3. アルミカップに入れてオーブンで焼く。(180℃ 約15分)

